

芸術文化創造センター第2回 意見交換会 概要

日 時：平成26年10月13日（月・祝）16時～18時

場 所：小田原市役所 大会議室

1 開会（進行：芸術文化担当課長）

- ・文化部長あいさつ
- ・本日の流れの説明、傍聴にあたっての注意事項、質問用紙についての説明（台風接近に伴う警報等の発令状況についての確認含む）
- ・これまでの経過について説明（議会での議決報告含む）

2 意見交換会

(1) 実施設計の検討状況（榑新居千秋都市建築設計 新居千秋氏）

これからは変更が難しくなってくる。最近出てきた問題も含めて、僕らがどういう段階でどこまで検討しているか今の状況をご説明したい。

樹木の保存の問題、4階まで行くエレベータの問題、車いすやバスの問題、生活道路をとって車がすれ違えるように、といった問題が、最近、特にこの2、3ヶ月前から出てきた。僕らも努力して、おおよそ解けたと思う。それについて順次ご説明したい。

先日もご説明したとおり、樹木の保存については、僕らも保存した方がよいと考えている。ただし、樹木医から、松は上の方に空洞があり、その部分は残すよりも切った方がよいという意見が出ている。従って、松については少し上を飛ばす可能性がある。全体の景観やコストを考えると庇等を長くするよりは短い方がよいと考える。皆さんが何か欲しいと言うたびに5,000万円とか1億円コストが上がる。今、僕らは、部屋の大きさを変えないで、構造の幅や、不必要なものを見つけては取っている。その中でまずこの庇の松、桜にあたる部分を取って短くしようと考えている。壁もやめて木に変えた。そういうことをして、皆さんが欲しいという他のものにお金をまわし、凹凸をコントロールしながら、この6ヶ月くらい検討している。木が歴史的なものかどうかは、ご意見もあると思うが、やはり200年、300年残っていて、それを今の市民が残そうとするというのは、そこから歴史も始まるし、環境もよくなるので、模型も何個も検討して、確実に残したほうがよいと思った。入口を変えると、歩道などの位置も変わって反対側にも影響が出てくるので、それは今のまま残す。木の上部については、樹木医の方がおっしゃっているので、切るなりして、この形を残していく。1つの敷地に対して2つの切り込みがあるのが原則なので、この部分は現状の状態ということで、実際の切り込みとは別に考えている。

あと、近隣の方のみなし歩道1mを守り、敷地内通路で1.4mを引いて、その結果、建物を少し西に移動した。高さを若干縮めないとならない部分があった。そこを機能的に

解決し、躯体の幅等を調整して、消防車などの色々な問題に対しても、解決した。また、ギャラリー側の土地を取得していただいたので、バスの問題等も解決できる方向になった。

小ホールの中央部分を抜いて幅を調整したので、295 席程度になっている。この数字が確定ではないが、今のところ、音のシミュレーションや構造の関係で、おおよそこれくらいの数字の前後になるだろうということがわかっている。

大ホールのエレベータを移動して、クローク等の位置も変わった。逆に裏方側からクロークにすぐ出られて、色々な用途に使える形になった。また、今日は比較資料を持ってきてはいないが、ロビーは、1,260 席ある劇団四季の春側の劇場ロビーより大きく、豊かなものになった。それにエレベータの位置を変更した関係で、メインエントランス部分が広く、さらに格調の高いものになった。後でもご説明するが、トイレのバランスも変えている。全体には普通の基準よりも 30 個近く多く、僕らが通常入れているよりも、かなり多くのトイレが入った。1 階のホワイトエは先日ご指摘された穴数を入れてやっている。エレベータを入れたので、この部分だけで 5,000 万円分くらいはコストが上がる。エレベータと構造のお金である。それをどこかで吸収しなければいけない。また、全体的に、この建物はシンプルではあるが、両側から 2 つのホールと大スタジオで真ん中に寄ってきており、構造的にもすべて真ん中にしわがよっている。それを僕らは今、解決している最中である。全体に躯体を真っ直ぐに通すことによって、コストを調整する。今、構造の担当者と壁厚など、全体の微調整をやっている。

エレベータは以前の位置では 2 階までしか行けない。今は位置を変更し 4 階まで行く。この位置が限界でこれより外側にすると、全体に多大な影響が出る。遮音をとり、エレベータ前のスペースもとっている。また、専門委員から、大スタジオをメンテナンスする階段も必要だというお話も出てきたので、それらも同時に解決している。この形でいけば音環境も問題がない。

ホール内部については、音のシミュレーションや視線の検討をし、また、バルコニー席の前で舞台を照らすライティングをしたいというアドバイザーからの要望もあったので、そういうものも含めて全体をチェックしていくと 1,112 席程度になった。これでメリットもある。1 席増えると、階段の幅が全階にわたって増えるし、視線の問題にもなる。今は、階段幅など、いらぬ部分を削って、オーケストラピットやライトブリッジにお金を回していこうとしている。そうしない限り 65 億からどんどん増えていく。それを行ったり来たりしながら、どこまで追いつけるか、かなり難しいが、努力している。だいたい 100 m²減らすと 7,000 万円くらいお金が減る。階段の内法の寸法は法令で決まっている。この席を 1 席増やすと、階段の幅が全階にわたって増える、ということを含めて、躯体の幅など計算しながら、今、調整している。

2 階までのエレベータだった時も、躯体には触っていないので、音環境としてはきちんとしていた。4 階までのエレベータにするということは、2 倍近いコストの物になる。

また、物は長い方がゆすれば大きく揺れるので、そういう振動が伝わらないように、計算をし直した。今の、この位置ならなんとかかなると考える。あとはコストの問題を徐々に解決していかなくてはいけない。コスト的にダメな場合は、2階までにすれば成立するので、今はこちらの案を進めて、なんとかこのコストを捻出できるように、設備関係などのいらぬ部屋を削ったりしているのが、僕らの今の現状である。

ギャラリーについては、基本計画には、展示で 350 m²程度と書かれていた。その時点では準備室や備品庫の問題があまり明瞭に書かれていなかったが、三ツ山委員に、横浜市民ギャラリーあざみ野等を見せてもらい、必ず準備室や備品庫がいると言われた。ギャラリーの案を見せた時に「それではダメだよ」という話になり、ギャラリーと大スタジオを連携させて、今のような西相展も、ロビーでやっているものを出来るかを確認しようという話になった。また面積を検証しはじめた。しかし、最近になって、やはりそれには 800 m²必要だ、という意見が僕らの方へきた。頑張ろうと思う。しかし、現在行われている西相展には安全上の問題がある。僕らが新しい建物をつくる場合、僕のような立場を「管理建築士」と言うが、危険があり、のちのち事故が起こりそうなものは、事前にきちんとお伝えして、正確にやらなければいけない。地震が来たりしたら倒れてしまいそうな、危険性がある仕組みでは出来ない。それを吸収しながらもっとよい展示ができるように直している。展示壁の幅は 2m40cm を目標として、それ以上細かく壁に縦線が入らないように等の指摘もあった。

今の西相展は 3 階にわたる展示スペースと渡り廊下の部分もあって、ただ単純に面積を計算すると 867 m²ある。その面積には階段等も含まれており、ドアからの十分な空きがなくドアに突き刺さっているところもある。それをきちんと展示できる線で計算していくと、今の西相展が行われているのは 544 m²くらいだということになった。ギャラリーに大スタジオやロビー等の展示できるスペースを足していくと、1 階のみで展示ができる現在の案では全体には 559 m²あり、544 m²よりは多い。ただ、ロビーの展示スペースの一部については、小田原を発表したいという小さい部分ではあるが、色々提案している方々がおりその方たちとお約束もあるので、その部分を除いて計算すると 518 m²になり、544 m²よりも 26 m²だけ少ない。現在の西相展で使われているようなパネルではなく、かなり最先端のものになっている。また、2 階に中スタジオがあり、運用で、そこでも展示ができる。階を変えて展示してよければかなり楽勝でクリアする。共通ロビーのところのレストランに沿ったところには、パネルをぴったりくっつけられる。ものが倒れる心配がなく、どこかからパネルを持って来る必要もなく、地震の時でも大丈夫なものを計画している。

ギャラリーは、ちゃんと光天井にした。他の美術館でこういうところに影が出るものがあるが、コンサルタントと共に、ライティングの角度を計算して、模型もつくって検討している。パネルは 3m くらいの高さで、吊られて出てくるタイプで、地震のときも倒れないものになっている。

ギャラリーはパネルがレールで出るが、大スタジオはポーラ美術館と同じように、ボックスで立つもので、4個で4つの展示、また、2ゾーンで分けて展示出来るようにもしてある。三ツ山委員がおっしゃっていたより若干広い6m 離くらいの空間が出来る。「5m以上ないといけない」と言われたルールを守っていくと、このような感じになる。問題はないと思う。また、展示の人が常時いて、会議が出来て、ランプなどもしまっておける部屋も設けた。ギャラリーの出入口については、2箇所あるというのは、申し訳ないが、市役所との協議による避難上の問題もある。1室でも2室でも使える形になっている。

事務所には大きな模型があり、凝り性の者が、1つずつ絵を貼って、員数を確認しながら検討している。今度、三ツ山委員に見ていただく。天井は排気の問題もあり、グリッド状のものになり、その上に設備がある。その設備で、確実に美術によい空調ができるようになっている。大スタジオは天井の高さが6mあるので、上でひっかけて止めることが出来ないで、システムを色々検討している。最初は1つで自立するものが出るかと思ったが、不幸にも僕の見落としがあった。ポーラ美術館は全体が免震構造で出来ていて、膨大なお金がかかっている。そこまでは出来ないで、リーガーのように足が出てくるタイプ、巾木が伸びると絵に近づけないで出来るというタイプを検討している。僕らも含めて、美術館の照明をやっている連中も集めて、検討している。かなり格調の高い展示が出来ると思う。

お金のかかった作品や高い作品の展示をどうするかというお話があったが、それはやはり、大スタジオかギャラリーでやっていただかなくてはいけない。運営の問題になるになるので、後々は運営の方で議論して頂きたい。大スタジオはキャットウォークがあって、そこから光が来る。6mの天井からこのパネルの白に対してどう光がいくかは、今、検討している。何回も、色々な美術館に行つて僕らは調査した。その結果、大丈夫だろうという模型をつくって検討している。色々なタイプをやってみて、絶対にこれが必要だということで、何週間もかけて、ずっと検討している。レストランのあたりには、上階の荷重を支えるために、柱ではなくて細かい鉄の棒がついている。パネルを出していないときは一体として見えるようになる。先ほどのパネルがここの間に入ってくる。

基本設計よりも、小ホールゾーンが30㎡程度、展示有効面積が13㎡程度、大ホール客席部が26㎡程度減る。全体の面積を100㎡単位で減らすとコストが7,000万円から1億円減る。ライトブリッジなどの色々なものに対して4億円くらいオーバーがあるので、そのコストと、僕らが削った平米数をマッチングさせようとしている。おおよそ、10,000㎡を切れる状況になっていると思う。それでも、地下室などは専門委員などの要望で増えている。内容がよくなって、そういうところは増えている。僕に「技術的にどちらがよいか」と聞かれると、「皆さんのおっしゃる通りです」としか言えない。それで、僕らが削れるところを削って、建物をつくらうとしている。例えば立面も、以前は全面ガラスのような形をつくったが、ガラスは高かったので、全部ガラスをはがし、何億円か減っている。今もガラスが1,200~1,300枚ついているが、600枚強にしようとしている。

それ以上は削ると、部屋に明かりが入らないなど、建築基準法上の問題にもなる。換気ガラリを兼ねているものもあるので、中が暗くならない、問題のない程度に削ろうとしている。すごく細かい法規や構造の確認なので、簡単には割り出せない。ただ、ざっくり言えば、この辺から上には窓ガラスがないと考えていただきたい。少しモノトナスになるが、機能を重視した方がよいだろうということで、窓を取っている。あとは、照明でそれをカバーできるのではないかと、色々あたっている。

次に、広場側で、庇を切るかとか、壁を取るとかで、600~1,000万円くらい減る。植樹であれば100~150万円くらいでいける。今は差し引きしながらデザインし、なんとか原資を捻出しようとしながら設計している。デザインは庇を切っても大きくは変わらない。小ホールも低くなる。ようやく構造、設備、音響で「切ってよい」ということで、小ホールフライタワーの高さを3m下げようとしている。下げた時の効果も見ていただきたい。あとの検討は何カ月かかかる。窓などは、建築基準法の問題もあり、市役所の他の部署の人たちと1つ1つ打ち合わせをしなければいけない。また、窓を開ける位置によっては、構造担当者が嫌がる。そして構造担当者が嫌がる位置に窓を開けるとコストが上がる。窓の位置を1人の担当が4、5カ月検討しているが、まだ、ようやく、員数くらいだ。あと1カ月くらい構造とすりあわせて、役所ともすりあわせて、決めようとしている。

松があり、桜があり、上部を切っても、全体にはよい感じになるだろう。緑も増え、歴史的な環境も守れる。馬出門の前からヒュッと行ける。この絵は景観評価員の大学の先生や都市計画家に見せた。皆さんの意見で、こうしたものを全部取ってしまうと寂しくないかと言われた。僕の考えでは、少し凸凹するくらいの陰があれば大丈夫だと思う。当初のようにガラスや金属を貼ることはコスト的に出来ないが、全体には躯体そのもので陰をつけるということで、他の方にコストを回そうとしている。

天空率の計算は、冗談ではないがハトやカラスが糞をただけでも、ギリギリなところまで追い込んで、中の性能を上げて、なるべくストラクチャーを削るということで検討している。それでも地震に対する重要度係数を1.25としている。僕らの建物は東日本大震災の時に数少ない残った建物の1つなので、構造的にはかなり頑丈になる。屋根の形状は、2ヶ月くらいシミュレーションを重ねて出した形である。

基本設計時のパースをお見せする。そして、今のパースを比べて見ていただきたい。小ホールの屋根が下がる。この分で1億くらいのダウンを狙っているが、どこまでお金に効いているかわからない。屋根も同じだが、理論値通りにお金は減らない。しかし何千万円かはセーブ出来る。今、この図面をもう一度描き直している。庇が切れて、松が見える。緑が見える。以前よりもやさしい感じがするのでよいだろう。広場のアクティビティについては、あまり変わらない。外壁は、全くツルツルのコンクリートでは寂し過ぎるので、かぶり厚くらいで、少し凸凹させて、スケールダウンしようと考えている。

中からのパースをお見せする。大きく変わるかと期待したが、実際にはちょっと桜が

みえるくらいで、中からの風景はあまり大きくは変わらなかった。ギャラリー側の土地を取得していただいたことで何が変わるかについては、2台から3台の車が停まる。狙いとしては、小学校のクラス数にもよるが、3台くらいを敷地内に入れる。広場は残置する。どうしてもという時は、広場にも入れるが、その場合はイベントができないということになる。全体ではこちらをメインで2、3台を使って、それ以外の車は他へ停めて循環させるというものでなければ出来ない。僕らもかなりしぶとい方ではあるが、これが限界かと思う。運営も含めて、今後も検討していきたいと思う。

これを今の建物に入れた時にどう見えるかを、景観委員の人にお見せしなくてはならなかった。基本設計時と現在のパースを見比べて頂きたい。桜が咲いた頃には、建物としては圧迫感がなくなる。楽しそうな人が目線で見えて、上には桜くらいしか見えない。この道からは、緑がつながって、引いているので、やさしい環境にある建物になると思う。この木が4、5年の間に育つだろうと思い、予算としては4m前後の木で見ておこうとしている。裏の国道から来た際のパースをお見せする。出来れば生垣のようにして機械をなるべく隠したいと思っている。緑があれば良い環境にはなると思う。前からのパースをお見せする。フライタワーも下がった。ポスターケースなどは、この位置がよいかどうかわからないので、もう少し考える。こうしたものは機能を変えずに、全体のいらぬ部分を削っている。

舞台設備は、市来委員や、その他のアドバイザーと、6、7時間、長い時はもっと打ち合わせをして、検討している。今のように削る作業をしないと、4億近くはオーバーする。僕らはそれを、色々なところを調整しながらゼロに持っていくようにやっている。

大ホール内の照明の投光拠点の位置については、舞台の鼻先からどういう距離にあるかなど、色々なルールがある。僕らも、僕らサイドのコンサルタントと検討してきたが、市来委員や他のアドバイザーと改めて検討して、シーリング、フォローなどの位置を決めていっている。今まで僕らが他の施設に入れてきたスピーカよりもかなり良いものを、つけようとしている。迫りについても、僕は手動にしたいなどブツブツ言ってきたが、聞かれれば、全自動の方がよいと答える。だから、今、基礎を計算しなおして、そうしたお金を捻出できないか検討している。十数人のディスカッションによって検討を進めている。技術についても、今、舞台機構のいろいろな会社に質問をしている。僕らの事務所は舞台設備の図面も全て描くが、当初は、建築家はこういう図面は描かないと思われていた。そうではない。僕らは毎回描いて、毎回実現してきている。今は、アドバイザーの方と僕らで、この方法で進めて、なんとかコストをあわせようとしている状態だ。細かい点があれば吉崎に聞いて頂きたい。

ここにライトブリッジがあるが、これが1本5,000万円で2本ある。今は少なくとも1本は入れることにし、2本目はなんとかできないか、まだ検討中である。オーケストラ迫りは、まっすぐに下ろしてきれいにできるようにしている。さらに舞台の下に倉庫があって、そこから物を上げられるようにもしている。それ以外には、バルコニー席の鼻

先にも舞台を照らすものがなければいけないと言われたので、それを設けることを前提にメンテナンスの対応などを考えている。客席を減らして、それに伴って階段の幅を縮めたりしている。そして何とかそのコスト増分を吸収するように頑張っている。あとはやってみないとわからない。これでいけば、公共ホールの中では、日本の中でも、こういう多目的なものの中では最も優れたものになると思う。

舞台の鼻先については、舞台系と音楽系、僕らのコンサルの中でも戦いがある。今は、基礎を上げて、迫りを1枚ものにしようとしている。また、話し合いをして、どうせ基礎があるので、舞台の下に空間をとって、倉庫的なものを設けるということにした。全体にどういうバトンが必要か等については僕だけでは説明できないのでアドバイザーの方と検討している。また「いもむし」みたいな形のスピーカが出てくるので、それが吊上がって、ちゃんときれいにできるように検討し、オーケストラピットも直している。お金さえクリアすれば、かなりよいものになると思う。

天井の滑落事故があったので、規制が出来た。こうした天井の構造を考えて構造から30cmだけで全て処理できるようにし、そのお金も舞台設備にまわそうとしている。1m50cmくらいの大きな模型、天井だけで2m角くらいの20分の1の大きな模型もつくって、音の反射等を検討し、解決しつつある。

小ホールは先ほど申し上げたようにフライを下げた。なぜ下げられたかと言えば、音響反射板の機構を色々検討して、後ろから音響反射板が出る機構を考えたり工夫しているからだ。側面反射板は、畳んでおける形を色々なメーカーと一緒に検討している。それによってフライタワーの高さを縮める。そのコストもバランスさせて、大小ホールあわせて検討している。また、裏周りの通路も共有しているので、備品も共有できないかということも考えている。小ホールについては、大ホールのタイプではないスピーカで検討中である。しかし、普通の、日本の8~9割のホールには、大ホールに入れようとしている「いもむし」のようなスピーカではなく、普通のスピーカが入っているので、問題は無いはずだ。これもかなり良いものになると思っている。

永田音響設計と僕らで、小ホールの音響のシミュレーションをしている。僕らが図面を変えると、全部やり直しになる。大ホールは、今の角度の計算まではしていないので、シミュレーションのデータは出てないが、こういった検討を何度もやっていくと、シューボックスのホールよりも音が良くなる。こうしたデータは何百枚もあり、これを僕らが見ると、「どの音がどう反射しているので少しこの壁を変えよう」という検討が出来る。天井の角度を1度変えるだけで、このデータはざっと変わる。こうした資料は出来あがった後に皆さんに見ていただけると思う。そうしたシミュレーションをしていくと、最高の音になる。大ホールも徐々に検討を始めた。大ホールは内部の形態を変更したので、今やり直しているところだ。

大スタジオは展示の、十字架かまっすぐに出来るタイプの壁と、台や棚がしまえるかを検討している。セミナーに使った場合、椅子席で使った場合で、何席になるかも検討

している。展示壁はこの壁にそのまま押していくと収納できるようにしている。最初は6mの吊物でやろうとしたが、そうすると6,000~7,000万円になってしまうので、この部分を改良して多機能にできるように調整している。大ホールの主舞台と同じ8間がとれる稽古場での利用や、オーディション等のディレクターがいて使う場合、バレエとかダンス、ヨガで使う場合、バンケットでパーティ等をする場合などの機能が考えられる。それに対して倉庫の員数が合っているかを確認している。足りなくてもなかなか増やせないが、一応、そこに入るように努力して考えている。大スタジオだけの模型をつくり、どういうふうに見えるかのシミュレーションもしている。大きな模型が出来ている。色については、展示をやるということで、真っ黒か真っ白かという問題がある。グレーくらいの色でやるとちょうどよいかと考えている。

あとは、2階の創造スタッフ室等を変更している。フレキシブルにしていったのと、スケジュールとかものを置く場所をつくった。運営委員の人用のロッカーを入れることは、この寸法がギリギリなので、難しい。スタッフ室の外に、ロッカーや本や資料を置けるような棚を考えようとしている。こういうところの躯体を減らすとお金も安くなる。

中スタジオは、動線の区切りを設定することができ、ホールに大きなオーケストラがきた場合の控え室にもなる。ホールとは関係なくレクチャールームとしても使える。倉庫も計算してついている。三ツ山委員ともお話したが、ここで陶芸をやることは難しい。流しのシンクは2つある。防災上も、僕らの経験上、部屋にキッチンがついている方がよいと思う。10ヶ月位人が暮らす場合は、下まで水を取りに行くことはできない。そういう流しも見込みながら検討している。印刷機などは、皆さんが使っている機械を調べながらやっている。それがこの辺の部屋のありようだ。ここは簡易な防音くらいは出来るが、小スタジオのように全部浮床にするというのは、1つで何千万円もかかるので出来ない。浮床の一步手前くらいにしている。

真っ直ぐな建物だが、図面が異常に黒くなってきているのは、皆さんの思い入れが強く、それを図面に描いていくと、ガランとした建物でも、どの部屋もかなり多機能になるからだ。そのようにはやれていると思う。全体は、僕らが減らして、10,000㎡を切ろうとしていて、9,900㎡に向かっているはずである。しかし、毎回、皆さんの意見を聞いて改良している。微妙に全部の部屋が違う。全部見直しをかけている。

3階は階段の幅を縮めてなるべく工事がしやすいように、間をあけるなどしている。4階でエレベータを下りると、2m50cm角の人が出入りできるエレベーター前のスペースがある。ここを広げると客席が減る。4階まで行った時に、普通のエレベータの前あきくらいがあればよいだろうということで、ギリギリの寸法でとっている。前の城下町ホールの設計と違うのは、各部屋のすぐ近くに機械室を持って行って、そこからすぐにコントロールできるようにして、800㎡を現在減らしている。そういうところを細かく調整しながらコストをセーブして、今、検討しているのが、我々の現状だ。

これ以上増えるのは難しい。例えば客席を何席か削ると、階段がもうあと25cm減る。

そうすると下までで 100 m²くらい削れる。そうすると 1,112 席と今は算出しているが、それが 1,106 席になるのは許して頂かなくてはいけない。僕らが客席を削るのは、一つは、今、視線をチェックしているので、視線を取るということがある。折角つくるのだから、見え方や音も最高にしたい。5 席増えたからといってこの営業に関わるという事はないだろう。そういうすごく質のよいものをつくるのに、いらぬものは削る。しかし、東京都よりも神奈川県と小田原市は条例がきついで、1.2 倍くらい階段の幅が広い。今の僕らの実施設計の作業はこのようなところで、内部のデザインなどには、まだとてもいける状況ではない。皆さんからの要望を変更するのに、1~2 カ月、苦しいところがある。今は事務所総がかりでやっている。だんだん意見交換会に来る人数が減っているのは、今日も、事務所で模型を作っている人たちがいるからだ。事務所に人を残してこないといけない。これで全体の説明を終わる。

(2) 管理運営の検討状況

芸術文化担当課長：

時間的にも差し迫っているので、かいつまんでご説明させて頂く。パワーポイントのデータをお手元に配布したので、そちらを確認頂きながら説明を聞いて頂きたい。

まず、これまでの市民会館と芸術文化創造センターのコンセプトがどう違うのか。単に施設の貸し出しを行うものではなく、社会的文化機関としての整備をするということ、創造系、支援系の諸室を新たに整備することになっている。今の市民会館は貸館のみの施設で、長く自主事業を行ってこなかった。その昔はやっていたようだが、今はやっていない。芸術文化創造センターでは、なるべく、継続的にそういう事業をやっていきたいと考えている。

公立文化施設が置かれている現状ということで、全国的なデータを引用した。指定管理者制度が出来て約 10 年が経過した。「劇場法」とも呼ばれる「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」も出来た。それにより文化施設の管理運営方法が、今、段々と変わりつつある時期にきている。それを念頭に置きながら、新たな運営母体を考え、地域に根ざした、小田原に根ざした新しい文化施設のあり方を今後は考えていかなくてはならない。昨年度のデータでは、運営の方法のうち、全国で、直営が 44.2%、財団法人が 29.3%、共同体というのが 9.9%あるが、これは民間事業者と財団または社団等の法人の共同体を指す。これを見て頂くと、やはり自治体の設置した外郭団体が運営しているという施設が多く、全国的に見ても 8 割を超えている。これは設置自治体が文化施設に関わりを持つという事のあらわれではないかと思う。「その他」というのが 9.9%あるが、これは主に国立劇場などの独立行政法人等だ。こうした状況を踏まえ、委員会での施設の議論の中で、運営方法は、「直営」または「民間を含めた指定管理者」と大きく分かれた中で、やはり「文化財団」という考え方が、両方のメリットを持った形であり、必要なのではないか、

とされている。

運営において重視したいポイントは、運営母体がどのような形であっても、文化施策を長期的に実現するということが一つである。そして二つめは専門性の高い人材を確保しておくということ。そして効率性および柔軟性の高い運営、そして経営という感覚を持って施設の運営にあたること。この3つが、重要ではないだろうか、とされている。

社会文化機関という言葉が最初に申し上げたが、教育や福祉との連携がしやすい組織であること、芸術文化によって地域の社会的課題を解決する機関として有効であること等、様々なメリットがある。

望まれる事業については、人づくり、まちづくり、その活性策などの施策を行政とともに考えて実施できる、そういう認識を持つこと、そして市民協働や市民参加事業ができること、育成、普及、こういった教育的な側面を担うことができることが、大きな特徴だと思う。

社会文化機関に望まれる組織としては、ミッションを達成するためのスキルを持った専門人材を配置できることが重要だと考えている。そして質の高い事業、創造性のある事業、育成、普及を継続的に実施できること、そして民間との競争に対応できるような効率性を持つこと、資金調達、広報等も柔軟に行えることが、社会文化機関として組織に望まれていることの説明とさせて頂く。

今日は桧森分科会長がいらっしゃっているので、補足をお願いします。

桧森分科会長：

社会文化機関という言葉が出てきているが、それは、文化施設をただ単に、余暇や心の豊かさを求める施設とするというだけでなく、社会的課題を芸術文化の力によって解決する機関としての施設として考えていきたいということである。

小田原市民の中には芸術文化に関心のない方もたくさんいらっしゃる。しかし大きな投資をする。それがどこまで社会的な波及効果を持つかを考えていかなければならない。芸術文化は経済の活性化にも寄与する。コミュニティの活性化にも寄与する。「社会的包摂」ということが言われているが、今の社会的な課題に対して、「社会参加が困難な方が芸術文化を通して社会と関わりを持つことが出来るようになる」ということがある。障がいをお持ちの方、外国人、子供達もそうだ。

私が館長をやっている鴨江アートセンターというところでの事例をお見せする。この写真に写っている、ストレッチャーに寝ている方は、中村周平さんというアーティストで、足の指と手の指先しか動かない。人工呼吸器をつけていないと呼吸が出来ない。彼は足の指でトラックボールを操作して絵を描く。彼は、自分の絵で皆を元気にしたい。寝たきりの自分にも出来ることがあるということを皆に知ってもらいたい。彼にとっては絵を描くことが生きることであり、絵を通して社会に参加している。この中村さんを講師にしたワークショップをやっている。コンピュータのお絵かきソフトを使ってみんなで絵を描きましょう、というワークショップである。子ども達が中村さんから教えて

もらって、絵を描いている。彼が描く絵は、とても力があるだけでなくユーモアのセンスがあり、見ていると元気になる。障がい者や子どもたちなどが社会に参加する機会がないということに対して、芸術文化が機会をつくる事が出来る。そこまで考えた文化施設をつくりあげていきたい。そのためには、もちろん、市民の皆さんと一緒にやっていくことが必要である。芸術文化創造センターではそういうことを考えていけるとよい。

ついでに言うと、中村さんが、もしも、この施設に来て何かやる際にも、一応、設備的には出来るようになっている印象を受けている。来てもらおう。

<休憩（10分）>

（3）意見交換（進行：空間創造研究所・草加）

内容	発言者
【舞台の大きさ】	
舞台の実効寸法を教えてください、音響反射板の設置時、前舞台のありなしで。	(※1)
舞台上にフルオーケストラと合唱団 150 以上、児童合唱団、ソリスト 3 人、ピアノ 2 台、チェレスタ、打楽器奏者 10 人が乗れるか？合唱団はイス付きで。	(※2)
<ul style="list-style-type: none"> ● 音響反射板を設置したところで間口が 10 間強ある。奥行は 6 間半。前舞台がおおよそ 2 間半。座席で言うと、3 列目までがオーケストラピット迫りになっており、4m 弱の大きさになる。 ● 音響反射板の設置については、小田原フィルのオーケストラと合唱のレイアウトを載せて、全員が載れる形で検討している。 	吉崎氏
<ul style="list-style-type: none"> ● カルミナ・ブラーナのようにティンパニーをはじめとした打楽器がずらりと並ぶ場合は、前舞台を出せば載る。前舞台を出さないと載らないだろう。 ● 前舞台を出しても、音響反射板の中で空間が一体になるようにつくってあるので、建築音響的に大きな問題はないと考えるが、今後、建築音響のシミュレーションを進めて頂く中で、前舞台を出した時の音響のシミュレーションについても、やっていただければよいと思う。 	市来委員
合唱団はイスがつくだろうか。	市民 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 150 人をイス付きとは考えづらい。立って頂くことになるだろう。100 人以下の合唱であれば、イス付きの可能性もあると思う。これは、細かく一度レイアウトをしていただかないとわからないが、ざっと見たところでも、カルミナ・ブラーナに関しては、前舞台を出さないと載らないだろう。 	市来委員
ピアノが 2 台必要だ。それ以外にチェリスタや打楽器が並ぶ。ティンパニーも 2 組。大太鼓、小太鼓 2 つも並ぶ。しかも 1 時間くらいの演奏時間になる。150 人以上の普通の合唱団の他に、児童合唱団も 20 人くらい載る。オーケストラも合唱団も含めると 200 人以上が舞台の上に乗る形になる。そういう形でイスが使えるような合唱団ができるかどうかを伺いたかった。	市民 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 今のようなお話は、この敷地の中では解決できないものもある。 ● 通常こうしたホールで、切ってはいけない数字というのは 16.5m である。18.6m の寸法であれば 2 管編成のオケが載る。それが通常の多目的ホールである。 ● 今のお話のようなことをしようとすると、膨大に大きくしないとできない。 	新居氏

<p>基本計画から大きくされてしまうと、難しいところがある。やれる範囲内で検討するが、敷地も幅が狭い。また、今の状態でも、僕らがいつも設計している施設よりは、前舞台の張り出しはより大きい。大船渡市や由利本荘市でつくっている1,100人から1,200人の施設を超えていて、かなり機能もある。検討はしてみるが、これ以上、躯体を動かすのは不可能に近い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今から1年くらい前に、そういうものをやるという話があって、それを実現するために、何かをやめよう、という論議がないと、これをふくらませることは出来ない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 私は「舞台を大きくしろ」と言っていない。質問は、「今の、現状の設計案の中で、どれくらいの部分が収まるのか」であり、それを聞いたかった。 	市民1
<ul style="list-style-type: none"> ● 設計時の想定として、小田原フィルが入って第九の演奏会が出来る、ということにはなっている、ということ、吉崎さんにご説明頂いた。 ● それに加えて、前舞台を広げた分だけは、プラスで入る、ということになる。つまり、カルミナ・ブラーナのパーカッションとピアノは、広げる部分、すなわち前舞台の面積があればおそらく入るので、児童合唱団は狭苦しく立つことになるが、入るのではないかと考えている。 ● しかし、実際に具合良く収まるかどうかは、一度レイアウトをしていただかなければわからない。絵を描いて検証していただく必要がある。 	市来委員
<p>承知した。</p>	市民1
<ul style="list-style-type: none"> ● もう一つの質問の、舞台の広さについては、舞台の袖幕を狭くした状態で8間と考えている。柱と柱の間、「大臣柱」と呼ばれる柱の間隔は10間ある。間口は約10間だ。ただ、演技スペースとして、袖幕を飾って使う状態では8間になる。高さは30尺、つまり9m。プロセニウムのパネルで高さを下げた状態で、袖幕で横幅を縮めた形が、演劇の劇場の形になる。 ● コンサートホールとしては高さが12m必要で、間口も18mなので、そうすることで、「コンサートホール」と演劇やポピュラー系コンサートを行う「劇場」の両立を行う。 	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● 「大臣柱」と呼ばれるものについては、今回は開口を大きくとるため、構造にも無理をさせている。スピーカ等を出すことも出来る新しいタイプになっている。36.5の内法があって、16.5をとっている。 ● 僕らの施設はここに柱を一切作らない。2階の後ろ、楽屋の上の部分で柱を出してスパンをとっている。 ● 全体的に、僕らはこの20年間で11のホール施設を設計して、これほど最強のものはない。あとはどうやってコストをあわせるかだけが問題だ。 ● このあたりを決めるためだけで、1ヶ月くらい、市来委員と僕らの間で戦いがあった。色々、出来る、出来ないという議論をした。「そんなに言うならやってみましょうか」ということで、何とかして、変更して描いている。このスピーカなども、動かしている。大船渡のホールでも大臣柱の位置は違う。簡単に柱が動いているように見えるかもしれないが、構造的にはものすごく難しい。それを何とか実現しようとしている。梁を中に出せないから、上の方に出して箱を引き締めてやっている。 ● 僕は「オーケストラピット迫りはお金がないから嫌だ」と言い続けてきたが、とりあえず、皆さんの意見が「全自動で行く」ということであり、それに決まれば、客席のワゴンも、ワゴンという形で全部入っていないとやりにくい。だから、全体がドンと下がる形にきちんとした。あとは、その部分の基礎を上げて、なんとかコストを賄おうとしている。この1ヶ月、2ヶ月で、どれくらいのお金がかかるかを見て、どうするかと考えようと思っている。 	新居氏

<ul style="list-style-type: none"> ● スピーカ 1 つとっても、「イモムシ」のような形状のもので、色々な指向性がある、すごくよいものである。 ● 舞台の間口は、先ほど吉崎が説明したとおり、19m 近くある。18.6m あれば 2 管編成以上のオケが載る。 ● さらに、市来委員が説明して下さったように、3 列分の前舞台を出すと、さらにそれが 20m 超まで広がる。そこへピアノの連弾の人を載せられる。 ● 上手側の舞台袖に穴ボコが開いているのは、その下に倉庫を足したからだ。上に荷物を上げて運べるように、改良している。 ● 先ほどの説明が不十分で申し訳ないが、小田原フィルは軽く載る。それを越えた他のものについては、どこまで載るか、これからシミュレーションをする。ただ、諸般の事情で敷地が 2、3 回縮んできている。 ● 36.5 というのはよいと思う。37 から 40 くらいの間は微妙だ。 ● もともと計画していたライトバトンというものと、ある程度形式の決まった位置に光が行く。ライトブリッジというのは、確かに、人が行けるので、動いたところに光がいける。「どちらがよいか」と僕に聞かれれば、「ライトブリッジですね」と言うしかない。一応、ライトブリッジの方向で検討している。コストが無理な時には 1 個諦めて下さい、ということになるだろう。 ● コストについては、僕らもまだ把握しきれていない。ちょうどヒアリングを開始したところで、あと 1 ヶ月くらいで終わる。そうすれば、どこまで出来るかがわかる。 ● 舞台についてはかなりきちんとしていると思う。搬入口なども全て改良している。他のまちの同じくらいの規模のものや、今までにつくられている建物を見て頂いて、90%以上の建物は、これより悪いと思って頂きたい。これ以上に先に行けというのなら、お金を下さい、というしかない。 ● 打ち合わせを重ねていけば、よいものにはなる。僕らの出来る範囲内で頑張っ、て、市来委員たちとも打合わせる。ようやく、大体折り合ってきたと思う。理想を全部かなえてあげたくても、それが出来るかどうかは、やってみないとわからない。一応、理想的なものについては、図面を描いて検討している。これであれば、行けるだろう、と思っている。 ● ご質問の内容についても、今度、きちんと描いてみる。ピアノの連弾は間違いなく出来る。裏まわりの通路についても、市来委員との打ち合わせで変更し、ピアノが小ホールと大ホールの間を運べるように、幅も調整した。小ホールでも大ホールでも 2 台のピアノが使える。かなり使い勝手はよいと思う。 	
<p>カルミナ・ブラーナは非常によい例だと思う。1,100 席くらいのキャパシティでやる音楽を考えれば、カルミナ・ブラーナは少しきつい気がする。しかし、それでもという時は、例えば児童コーラスを 2 階席に上げることも考えられる。そういう遣り繰りはできる。遣り繰りがどこまで出来るかも工夫しながら考える必要があると思う。</p> <p>メサイアも非常に人数が多い時は、観客席の中に入れる例もある。サントリーホールで行われる「1 万人の第九」でも、観客席が第九のコーラスになっている。このキャパシティの劇場で、通常やれるものが何か。そして、それを越えた時には演出上の工夫をしながら、どうやって使いこなしていくかを考えるのに、カルミナ・ブラーナは非常によい例だと思う。</p> <p>「やれない」のではなく、児童コーラスを上にあげるなどの工夫をすればやれる、ということを考えていくのがよいと思う。</p>	市民 2
<p>もちろんそうだと思う。</p>	市民 1
<p>藤沢市では、1,000 人でやっているが、その際もきちんと出来ていた。きっと大丈夫だと思う。</p>	市民 3

<ul style="list-style-type: none"> ● お願いだが、あと4、5週間だけ、レイアウト図の作成をお待ち頂きたい。今、設計工程の中で、あと4週間か5週間、僕のスタッフたちを集中させなければ建物のコストを読み切れなくなってしまう。 ● こうした、ダイアグラムを描いて、何人のオーケストラと合唱が載るか等を示すのも、半端なスタッフでは出来ない。そこに人を割くのに、もう4、5週間だけ、待って頂きたい。後からやっても変わらないと思うし、今の大きさでも小田原フィルが載る分は確保できている。イスを使う場合は何人になるなども、必ず描いてお見せするが、実情として、少しだけ待って頂きたい。 ● 他の、舞台機構のコストなどの調整をしないと、合わなくなってしまう。それらを正確にやっておかなければ、建設会社の人達は、高めに入札してくるので、細かく調整をしたい。その時間は願います。 	新居氏
【舞台設備】	
オーケストラピットは具体的にどのような形になるのか（自動、半自動等）。	（※5）
ライトブリッジは1本でもかなり間に合うのではないのでしょうか。	（※4）
映画上映の場合のスクリーンは常設されるのか。	（※3）
<ul style="list-style-type: none"> ● すでにこれまでの説明でお答え頂いている部分については、概略を説明させて頂く。オーケストラピット迫りは、前から3列分、間口いっぱい自動で下がる形になっている。客席ワゴンを手動で舞台下に引き込むタイプである。 ● スクリーンについては、大ホール小ホール共に、というご質問である。 	進行
<ul style="list-style-type: none"> ● ライトブリッジについては、基本設計時にはなかったものを、1本設けていただくようにした。そうすると、非常に使いやすいホールになってきたので、音楽物も含めて色々なもの、逆にここで公演したいものが増えてくるだろうと感じられた。 ● 今までの小田原市民会館と違って、市内だけではなく西湘地域のお客様をあてにした上演がなされてくるだろう、ということも考えると、1日で仕込んでバラす時という公演の際に、ブリッジというのは、本当に強力な味方になる。照明のアドバイザーからもブリッジは2本欲しいという声が出た。 ● 使い勝手大きなポイントになるということで、何とか2本設けられないか、と要望し、新居さんの方に、まずは2本できないか考えてみようと言われたところである。 ● 1本は約束されている。2本目については、検討されているところだ。 	市来委員
<ul style="list-style-type: none"> ● スクリーンは大ホールに入っている。 ● 言われたことを一度検討し、どのくらいのコストになるかを見て、諦めるなりをしなくては行けない。 ● 舞台設備費については、僕らは「8.7億」と言ってきた。現状でそれが10億を超えていると思う。しかし、それは一度算出してみないとわからない。 ● 今の市来さんのように「ライトブリッジがないというのは後々の小田原にとってどうか」と言われ方をすると、「では2本を見込んで見積もりをとりましょうか」という話になる。そうして見積もりをとったところで、皆さんと相談して、どうするかを決めようと思っている。黙って、ブリッジの本数を0本に決めることも、2本に決めることもない。 ● 今は、映画も両方できる状況になっている。その内容で、メーカー等に見積もりをあたって総額がやがて出てくる。各社の違いも出てくる。それを精査する。僕らが描いた図面以上に提案したい人はして下さい、とも言っている。それを見て、コストとの調整の中で決めていくことになる。 	新居氏

<ul style="list-style-type: none"> ● 僕らは、誰かに任せて図面を描かせるということはない。図面が出てきたところで、模型でもつくってみて、どちらがよいか、改めて検討する。もう少し時間を頂きたい。12月までには、何が可能かが、わかると思う。 	
オーケストラピットについて、もう1つだけ質問したい。3列分というと、オーケストラは70名くらいと考えてよいか。例えば、ヴェルディのアイダは無理だが、65名くらいのオーケストラで適切なものをやる、ということによいか。バレエや、モーツァルトは行けると考えてよいか。	市民2
<ul style="list-style-type: none"> ● はい。 	新居氏
【客席数】	
各々客席数はどのくらいに考えておりますか。	(※6)
<ul style="list-style-type: none"> ● 先ほどのご説明で、大ホールで1,112席、小ホールで295席という数字があげられていたが、実施設計を進めていく中で、多少増減する可能性のある、含みのある数字という理解でよろしいか。 	進行
<ul style="list-style-type: none"> ● 客席数については、今、ほぼ落ち着いている。それが一番よいと考えている。視線を確保している。また、手前の客席を増やせば、後ろの階段が増えていく。1席でも超えれば、基準が変ってくる。今はギリギリで1,112席としている。それがズレることはあまりないと思う。 ● その数字に、車いす席部分の可動席はカウントしていない。きちんとした数字だ。 	新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● 以前のワークショップで、「見やすい席」ということで、席が互い違いになっていく、という例が出ていた。それはどうなっているか。 	市民4
<ul style="list-style-type: none"> ● そのような形になっている。千鳥配置だ。 	新居氏
<ul style="list-style-type: none"> ● オーケストラピットを使う場合は、3列が犠牲になるということだが、その場合は座席数としては何席減るか。採算性に影響してくる。 	市民5
<ul style="list-style-type: none"> ● 迫りとしては3列だろうが、イスとしては4列目まで外す必要があるだろう。 	進行
<ul style="list-style-type: none"> ● 通路を考えると4列目も外すので、1,000席くらいになる可能性がある。4列目まで外すと115席減るので、997席、995席~1,000席というところではないか。 ● 採算性については、1,300席、1,400席を超えなければ、どのみち採算はとれない。その中で、音がよいちゃんとしたホールでないと、ちゃんとした人は来ない。以前お話ししたとおり、質を優先してきちんと検討し、雑な席をつくることを避けて、2回公演をやってもらう方がよい。 ● 少なくとも小田和正は僕らのホールを好きで、自分で来てやっている。僕らが呼んでいるわけではない。きちんとしたホールをつくらなければ、誰も来ない。何席あっても変らなくなってしまう。 ● 今、僕らは、そういう方向で、できるだけ視線もよくなるよう、大きな模型で全部チェックしている。 ● 毎回、形状を変えているので、変更はある。僕らだけで検討しているわけではなく、アドバイザーの方と打ち合わせをしていると「ちょっとここを変えてくれ」と言われて、それですぐに1、2席は変わる。 	新居氏
【展示】	
展示方法として、展示ケース、展示台のレイアウトシミュレーションは充分されていますか。展示ケースは高価なものですが、予算には含まれていますか。	(※7)
<ul style="list-style-type: none"> ● 展示ケースというのは、今、新しく出てきたが、何を展示するものなのか。もしも展示ケースをきちんとしようとして、免震付きのものなどにすると、膨大なものになる。免震できちんとしたのをつくれれば1つ1,000万円かか 	新居氏

<p>るものもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● おそらく、ご質問にあるのは製品化されているものだと思う。200万円くらいのものではないか。 ● コレクションを持っていて、繰り返しお見せするということが前提であれば、そういう投資もよいと思う。しかし、何年かに1度使うためだけに、そういった展示ケースを5、6個持っておくと、ものすごく大変である。どうしても必要な際はレンタルすればよい。 ● たいていの場合は「つくって、終わったら壊す」という話もする。このギャラリーは博物館的なもの、常設の展示作品を持っているという所ではないので、それでもよいのではないか。 ● 展示台についても、しっかりした物であれば、60cm×60cm×60cmの台に作品が一つ載るとして、作品を100入れる場合に備えて100個持っていなくてはいけない、という話になる。「立体物を何個置けるか」という質問は、床面積の問題だけでなく、展示台について、リクエストにお応えしていくと、本当に大変な事になる。 ● ギャラリーで一番苦労するのは、立体物をどうしまっておくか、だ。どこにしまっておくかが難しい。照明器具や作品を吊り下げるワイヤーについては、それほど苦労しない。そういう意味で言えば、折り畳めたりなど、新しい方式で考えていく必要がある。 	三ツ山委員
<ul style="list-style-type: none"> ● 美術展示に関して付け加えておきたい。芸術文化創造センターが市民の芸術文化活動の拠点になっていくということで、ここであらゆる活動が出来るとお考えになっている方も多いが、ここで出来ないことも、もちろん、ある。 ● 考え方として、ここを拠点に、活動を深めていく、作品を発表していくことはある。しかし、美術に関しては、何度も申し上げているが、松永記念館という場所がある。 ● 松永記念館は、松永安左エ門さんが、ご自身のコレクションを展示する場所として整備されたものを、市が譲り受けて使っている施設だ。いわゆる「美術館」と言われるものが小田原市には今はないので、松永記念館で美術館的な使い方を強めている。コレクション的な展示をしたり、高価な作品を企画展示したりする場所は、どちらかといえば松永記念館になる。 ● 市民の方が自由に使える場で、市民の方の様々な活動の発表の場として使っていただくのが芸術文化創造センターになる。この棲み分け方、既存の施設と芸術文化創造センターの連携の仕方というのは、議論を深めていくポイントになると思う。松永記念館の存在も頭の片隅に入れていただきながら、美術のことをお考え頂くことも必要だと思う。よろしく願いしたい。 	文化部長
【運営】	
<p>社会文化機関のコンセプトは分かりましたが、具体的な運営内容において、他の自治体の失敗事例を教えてください。10年20年と採算がとれる運営指針が必要と思います。</p>	(※8)
<p>運営方式は今後の検討であろうが、是非、幅広いメンバーと専門家が参加する運営委員会を作ってほしい。</p>	(※3)
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会文化機関の失敗例はない。そういう形で文化施設が取り組んでいるケースはまだ少ないからだ。今、これからそういう事例が出てくるだろうと思う。 ● 社会文化機関の取組みの典型的な例は可見市文化創造センターが先端だと思う。 ● 10年、20年、採算がとれる運営の指針ということだが、「採算」をどう考えるか、ということである。何回も申し上げているが、文化施設は、毎年、運営費、事業費がかかる。収入は、借りてくれる皆さんから頂く利用料金と事業をやった時のチケット代などだ。それに色々な協賛金をとったとしても、 	桧森委員

<p>年間の運営費に対して、まかなえるのは60%くらいだ。40%は必ず赤字になる。その赤字が市の文化予算ということになる。それを市が文化予算として計上し、文化政策を推進していくのが、公立文化施設である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ただし、そこをきちんと効率よくやりましょうねということで、指定管理者制度が出来ている。これは、効率と成果を求める。それがこの10年くらいで大きく変わっているところである。その潮流に、小田原も乗っていかなくてはいけないだろうと思う。 ● 幅広いメンバーが参加する運営委員会については、何らかの形でこういうものは必要だと思う。いろいろな形の事例がある。評価委員会、企画委員会などの色々な形で多くの方が運営に参加できる組織が考えられる。 ● ただし、コアになる部分については、一つの独立した事業体として、きちんと経営される必要があると考える。 	
--	--

質問一覧

・舞台の有効実寸法を教えてください。（反響板設置、前舞台有り無しで）	(※1)
・舞台上にフルオーケストラと合唱団150以上、児童合唱団、ソリスト3人、ピアノ2台、チェレスタ、打楽器奏者10人が乗れるか？合唱団はイス付きで。（カルミナブラーナを演奏の場合）	(※2)
・映画上映の場合のスクリーンは常設されるのか。 ・運営方式は今後の検討であろうが、是非、幅広いメンバーと専門家が参加する運営委員会を作ってほしい。	(※3)
・シーリングスポット、センタースポットの値段はいくらですか。 ・ライトブリッジ（前回は1本5,000万と言われていた）は2本つくるとコストと維持費はいくらですか。1本でもかなり間に合うのではないのでしょうか。	(※4)
・オーケストラピットは具体的にどのような形になるのか（自動、半自動等） ・9/24（水）の専門分科会のチャートについて、①専門人材の配置は組織内に必要なものか。コンサルティングの形で良いか。②民間との競争に対抗とは、西湘地区では具体的にどのようなことなのか？（東京・横浜まで意識をしてなのか）	(※5)
・各々客席数はどのくらいに考えておられますか。	(※6)
・展示方法として、展示ケース、展示台のレイアウトシミュレーションは充分されていますか。 ・展示ケースは高価なものですが、予算には含まれていますか。	(※7)
・社会文化機関のコンセプトは分かりましたが、具体的な運営内容において、他の自治体の失敗事例を教えてください。10年20年と採算がとれる運営指針が必要だと思います。	(※8)
・大ホール小ホールの「非常口」は、場所、数は。 ・「張り出し舞台」で演奏した場合の音響シミュレーションを是非行って下さい。（前に出ると音はガラリと変わります。）→オケの場合はバイオリン群が前へ出るため	—

<p>です。</p> <p>・バンダ演奏のスペースは可能ですか。(2F 左右の端のスペース)</p>	
<p>・新たに取得されたという場所の活用ですが、団体バスの置場ではなく、団体バスの乗降場その②もしくはギャラリー一般入車の待ち場にしたい方が良いのかなと考える。3 台の停車スペースの配分ってどんな感じなのでしょう？団体バスは降車後に藤棚に置けば良いのでは？大型バスが民家の真横だと、民家にかなり圧迫感を与えるのではないかな？と思う。</p>	—
<p>・樹木に与えられる土壌面積と日光、養生の計画についてどうなりますか。</p>	—
<p>・管理運営について、使用料の設定は今後でしょうか。現在の”メリット”はどうなるのでしょうか？①減免措置②使用料金の設定(市内、市外、登録制度)等です。</p> <p>・オケピットを使つてのオペラ公演は 990 席では採算上不可能です。オケピットは不要です。</p>	—

3 閉会

文化部長：

まだ全てのご質問にお答えしきれてはいないと思うが、まもなくお約束のお時間になろうとしている。先ほど、警報が発令され、御殿場線にはすでに影響が出ているという情報が入っている。このあと都内にお帰りになる委員の方もいらっしゃる、交通機関に影響が出ることは心配である。皆さま方にも、無事にお宅にお帰りになっていただかなくてはならない。本日頂いたご質問については文章でお答えすることをお約束し、この場については締めさせていただくことをご理解頂きたい。どうか、速やかにお帰り下さいますよう、ご協力をお願いします。

芸術文化担当課長：

現在、洪水暴風波浪警報が発令され、電車への影響もあるという。気をつけてお帰り頂きたい。質問用紙については、書き込みを頂き、係員にお渡し頂きたい。責任を持って、こちらで回答させていただく。次回の意見交換会は 12 月中旬を予定している。管理運営分科会は 10 月 18 日に予定している。本日はありがとうございました。

以 上